

カウントダウン その6

さあ、6カウントです。退職校長と新任校長の辞令交付式が、福島で行われます。

私事ですが、磐城高校を退職してから、常勤講師として高校教師を続けることになりました。校務分掌が示され、2年生の副担任であるとか、教務であるとか、地区高野連の担当であるとか、新しい仕事が待っているようです。まだまだ高校生にかかわることができるとなると、心がシャキッとします。臨時休業後、滞りがちであった身体づくりを再開して、心技体の充実を図り、新しい教材を研究します。国語教員は、教材が目まぐるしく変わりますので、きちんと準備しなければなりません。それも、4月1日から早速始めることとしましょう。

本日は、福島に朝から出かけております。退職辞令交付式は、9時45分から福島県自治会館で行われます。受け付けは9時15分からなので、6時半には出発です。県庁周辺は、オリンピック聖火リレーで交通規制があることから、福島東高校に車を置いて歩いていくつもりです。従来なら、小学校中学校の退職校長も共に辞令を交付されましたが、今年は、県立だけの校長による辞令交付となりましたので、17人が対象です。小学校中学校の退職校長はそれぞれの教育事務所で辞令交付をすると聞きました。代表あいさつの依頼もありましたので、責任重大です。

さて、4月1日からの令和2年度の生徒の活動について、できるだけ少しずつ学校での活動を認めてほしいという願いを続けてきました。具体的に実現するための方策を限りなく継続しつつできる場合とできない場合について検討を重ねているところです。

とりあえず、学校に生徒が気兼ねなく通うことができるための方策を取らないと、ずるずるとこのまま看過することができません。

天下の情勢は日々目まぐるしく変化しているところです。中国での爆発的な罹患数はヨーロッパやアメリカに移り、新型コロナウイルスの罹患者数の増加は、全世界的な状況となっております。

その中で、日本として、福島県として、磐城高校としてどのような道を進むことが最善なのかの明白な答えは、走りながら見つけていかなければならない状況です。ことなかれ主義に陥ることなく、生徒の生命の安全と健康な生活をどのように担保するかが大きなカギとなります。

人類に突き付けられている課題でもあります。カミュの「ペスト」にも書かれているこの状況を打破すること、打開することが私たちの今の使命です。

